

追悼文

偶然と、無念と、そして安らかに

田中裕子（5組、在インド）

偶然にも

何回目かの同期会で宮原豊君がジェットロのニューデリー所長や日印協会の役職を歴任していたことを初めて知りました。

2022年11月、突然、私たちが毎日のようにお参りに行っているサールナートのスリランカのお寺の中の壁画修復のお手伝いに来印するとメールをもらい大変驚きました。これは宮原君自身が壁画を通じ、サールナートに深い深いご縁があった結果だと思えます。（下記URL参照）

無念です

昨年7月12日の喜寿同期会の後、「もう少し頑張っで寛解させたい。明日はないと思っで今日を生き、日々の勉強を怠らず、寛解してお酒も飲みたいし、インドにもまた行きたいです」と。その後始まった治療に期待するポジティブなメッセージをもらいました。その薬が効かなかったとのこと。

奥様、ご家族様に

宮原君の投稿は多岐にわたっていましたが、時にはお孫さんを車でスキーに連れて行き、お昼寝している孫が可愛いなど、微笑ましい話もありました。きっといいお父様、お祖父様だったのだと思えます。

どうぞ安らかに

サールナートのお寺では毎日夕方5時半から、可愛い小僧さん達を含むスリランカと近隣のチベットの僧侶による読経が執り行われています。

宮原君が壁画修復のお仕事を一緒になさった専門家の先生に宛てたメールを私にもシェアしてくれました。

以下、引用させていただきます。

「私が死んだ後、皆さんとはインド、ヴァラナシ市サールナートの初転法輪寺でお会いできればと思います。仏教発祥の地サールナートには、インドで発掘された本物の仏舎利が保管されています。その隅っこに私の霊魂もお寺の下働きとして彷徨っていると考えると楽しくなります」

https://ueda65ki.sakura.ne.jp/NEWS/Miyahara_Report230104.pdf

今日（3日）、日本時間6時前から、宮原君が尽力したお寺の近くで、お灯明をあげさせていただきます。（写真2）

：サムデンさん（右）・田中さん（中）夫妻の自宅で（写真はダライ・ラマ様）



写真1 2022年11月、インドで宮原君と田中裕子夫妻



写真2 灯明が全部灯ったところ

(2026年3月3日記)

以上